

## 4．サービス貿易に関する調査研究

サービス貿易は、先進国を中心に進行する経済構造のサービス化、財貿易の拡大および直接投資を通じた企業活動の国際化の急速な進展、サービス産業に関する各国の規制緩和といった一連の動きを背景に成長を続けている。サービス貿易の自由化については、一昨年の WTO 閣僚会合の決裂という混乱にも関わらず新ラウンドにおけるビルトイン・アジェンダとして他分野に先行して交渉準備が進められている。

しかし、これまでサービス貿易に関する包括的かつ体系的な研究は多くなされているとは言えず、現実のサービス貿易が理論面や統計面の整備よりも速いスピードで量的な拡大、質的な多様性を進行させているように見える。特に近年の情報技術の急速な進化は、ヒト、財、資本の国境を越えた移動にまつわる障壁を軽減し、それらの移動にともなう多種多様なサービスの国際間取引の増加を促進している。

本調査研究では、国際経済におけるこうしたサービス貿易の重要性の高まりに注目し、現状におけるサービス貿易の実態を明示するために必要と考えられる理論面の実証分析および統計解析を行った。報告書は2部構成で、主な内容は以下のとおり。

### 第1部 サービス貿易：概念整理と先行研究のサーベイ

- 1．サービス貿易の概念整理
- 2．サービス貿易の理論・実証研究　：最終財としてのサービス
- 3．サービス貿易の理論・実証研究　：中間財としてのサービス
- 4．サービス貿易の理論・実証研究　：生産要素としてのサービス
- 5．サービス貿易の理論・実証研究　：新しい分析視点

### 第2部 サービス貿易統計を用いた分析

- 1．主要国の近年のサービス貿易動向とサービス貿易統計の整備状況
- 2．G7各国のサービス部門の国内生産と貿易の関係
- 3．多国籍企業による直接投資を通じたサービス貿易の計測